
休日の朝に手紙

藤波 咲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

休日の朝に手紙

【Zマーク】

Z50661

【作者名】

藤波 咲

【あらすじ】

消えていく思い出消えない思い出、"消せない思い出"……それは誰しもが抱えるモノ。貴方が抱えるのはどんな思い出ですか。その中に、"消せない思い出"はありますか

カーテンを開けると太陽はもう結構高くまで上がっていた。クロワッサンと缶コーヒーで軽い朝食を済ませた後、煙草に火をつける。

久々に彼女の夢を見た。

その頃、僕はまだ16歳で彼女は19歳だった。

ちょっとしたきっかけで知り合った彼女はとても不思議な子だった。全てを愛しているように見えれば、全てに興味がないようにも見える、そういう子だった。

けれどそれこそが彼女の魅力だった。

事実僕は彼女のそういう部分に興味を持つて関わっていたのだから。

でも今考えれば、それこそが彼女の悩みだったのかもしれない。

「私は私のことが一番わからないのよ。そして自分にわからないことなど他の誰にもわからぬいわ。」

そんな風に言っていたことがあった。今の僕になら何か言ってあげられたのかもしれないけれど、少なくともその頃の僕にはその言葉の意味すらわからなかつた。

それでも僕は彼女と居るのが楽しかつた。彼女も楽しいと言つてくれていた。それはきっと本音だったんだと思う。

会つてもただ公園のベンチに座つて通り行く人々を眺めているだけのことだつてあつたし、殆ど会話すらしないことの方が多いつたけ

れど、僕らは街中で抱き合つたりしているカップルなんかよりはずっと深い仲にあつたと思う。そう、思いたい。

別に恋人という訳ではなかつた。友達というのも、また少し違う。すごく微妙な関係だつたのだけれど、僕も彼女も形式なんかには拘らなかつた。

ただ気が向いた時に会うだけの関係。そこには会話も触れ合いも必要ない。本当にただ会うだけでよかつた。

それなのに、彼女はある日突然姿を消した。

いつものように、ふと思いつて彼女に連絡を取ろうとしたら一切連絡がつかない。

それは何日経つても変わらず、さすがに心配になつた僕は彼女の実家に向かうことにした。

けれど、彼女の消息を知る人は誰もいなかつた。彼女は誰にも何も言わずに、消えてしまつたのだ。

恋人でも友達でもない人がいなくなつた。

それは一見大したことのないようと思えるが、僕は酷く淋しい気持ちになつた。

失くしてはいけない自分の一部を失つてしまつたような

彼女が姿を消してから数日後、僕のところに彼女からの手紙が届いた。

『突然いなくなつたりしてごめんなさい。なんて言つても、もしかしたら気付いていないかもせんが。

本当はこんな手紙も書くつもりはなかつたのだけれど、どうしても伝えたい事があつたので書くことにしました。

恋人とも、友達とも言えない関係でしたが、私にとって貴方はとても大切な人でした。

それは貴方にとつても同じである事を願います。

そしてもし同じであつたなら、一つだけお願いがあります。

この先貴方がどう生きようと、どんな幸せを見つけようと、時々でいいからこの手紙を読んで私を思い出して下さい。

私がこの世界に存在していた、という事実を貴方の心から消さないでください。

貴方が忘れてしまつたら、私が存在していたということさえなかつたことになつてしまふような気がするんです。

だから、忘れないでください。それだけが私の願いです。』

この手紙が届いてから一か月ほどして、彼女の遺体は発見された。

そしてそれから既に5年が経つている。今では僕の方があの頃の彼女より年上だ。

「それでも、まだ約束は守られているよ。』

誰にも聞こえない、独り言とすら言えない程度の声でつぶやいた。それは彼女にだけ聞こえればよかつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5066i/>

休日の朝に手紙

2011年1月16日09時58分発行